

## 平成29年度第1回保健福祉部会

1 開催日時 平成29年6月19日（月） 14時から15時16分まで

2 開催場所 東成区役所 3階301会議室

3 出席者の氏名

### 【委員】

長田 栄一（議長）、羽鹿 誠一（副議長）、石川 洋志、石田 和美、大垣 孝子、塩田 保寿、高野 千壽子、橋本 輝枝、降幡 一雄

### 【東成区役所】

麻野 篤（東成区長）、木口 剛一（東成区副区長）、足立 幸彦（総務課長）、中須賀 孝（総合企画担当課長）、西山 明子（保健福祉課長）、北野 紀子（児童・保健担当課長）、花村 朋子（保健福祉課長代理）、大野 孝文（児童・保健担当課長代理）

4 委員に意見を求めた事項

平成28年度東成区運営方針の振り返り及び平成29年度の事業等について

5 議事内容（発言者氏名及び個々の発言内容）

○中須賀課長 定刻が参りましたので、それでは始めていきたいと思えます。

皆様、本日はお忙しい中、またお暑い中、東成区区政会議保健福祉部会にご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。

私は、進行を務めさせていただきます東成区役所総合企画担当課長の中須賀でござ

います。よろしく申し上げます。

なお、長田議長におかれましては急遽、診察が入りまして、その関係でちょっと遅れてお見えになるという連絡が入っております。

それでは、早速始めてまいりたいと思います。

開会に際しまして、一部委員の方の交代がございますので、私の方から新委員のご紹介をさせていただきます。委員の方は、その場でご起立をお願いいたします。東成区民生委員児童委員協議会からの推薦委員といたしまして、上田利明さんに替わりまして、羽鹿誠一委員でございます。よろしく申し上げます。

○羽鹿委員　　申し上げます。

○中須賀課長　　これまで保健福祉部会では、上田委員に副議長を務めていただいております。今回、ご退任ということになりましたので、副議長席が空席というような形になっております。上田委員の後任ということで、羽鹿委員にお願いしたいと思いますが、ご異議ございませんでしょうか。

(拍手)

○中須賀課長　　それでは羽鹿委員には、副議長席の方にお移りいただきたいと思っております。羽鹿部会副議長、一言、ご挨拶をお願いできますでしょうか。

○羽鹿副議長　　羽鹿でございます。何もわかりませんが、急に仰せつかりましたので、よろしくをお願いいたします。

○中須賀課長　　では、本日の開催状況でございますが、委員15名中、8名のご出席をいただいているため、本部会が有効に成立している旨、ご報告申し上げます。

次に、本部会の公開についてですけれども、区政会議に準じて公開となっております。議事録や写真等についても、ホームページ等で公開していく予定でございます。その点、ご理解のほど、よろしくをお願いいたします。

もう1点お願いでございますが、携帯電話につきましては、電源をお切りいただくか、マナーモードにさせていただきますようお願いいたします。

それでは、事前にお送りいたしました資料の確認をさせていただきます。

本日の会議資料としまして、平成29年度第1回東成区区政会議保健福祉部会70ページものの資料と、追加資料としてお席の方に配らせていただきました配席図、「自分らしい」最期の迎え方というリーフレット、チラシで緊急時安否確認（かぎ預かり事業）、「ヘルプマークを知っていますか」というコピーの資料と、最後に、いきいき百歳体操とウォーキングでつながる健康づくりというもの。不足の方はございませんでしょうか。

それでは開会に先立ちまして、区長の麻野より、ご挨拶をさせていただきます。

区長、よろしく申し上げます。

○麻野区長　皆さんこんにちは。東成区長の麻野です。

本日はお忙しい中、平成29年度第1回区政会議保健福祉部会にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。今般、当区役所におきまして、平成28年度の運営方針の振り返り、それから自己評価を行いました。本日の部会では、その結果のご報告と合わせて、今年度の主な取組みについて、ご説明させていただいた上で、皆様方のご意見をいただきたいと思っております。部会の皆様からいただきましたご意見やご提案につきましては、今後の施策や事業に活かしてまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

当区役所では、防犯防災、子育て教育、福祉健康、まちのにぎわい、それから区役所のサービスという5本柱で、事業を行っておりますけれども、今年度も、新しい施策をどんどん打ち込んでまいりたいと思っておりますので、皆様のご協力、ご支援を賜りたく、お願い申し上げます。

それから、去る4月に、日本政府の方で、2025年の日本万国博覧会、万博の大阪誘致が閣議了解されております。これに関しましても、地元としまして、さまざまな取組みを行ってまいり所存でございますので、皆様のご理解、ご支援をいただきたく思っております。

それでは本日も、忌憚のないご意見をいただけたらと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。ありがとうございます。

○中須賀課長　それでは、羽鹿部会副議長に、今後の議事運営をお願ひしたいと思います。よろしくお願ひします。

○羽鹿副議長　羽鹿です。よろしくお願ひいたします。それでは始めさせていただきます。

平成29年度第1回保健福祉部会の議事に入ります。

本日の議題1に平成29年度東成区運営方針の振り返り、及び平成29年度の事業等について、課題2、その他を予定しております。

まず議題1について、区役所より振り返りと29年度の事業等を続けて説明していただいた後、委員の皆様のご意見をお聞きしたいと思います。

また、そのあと、議題2、その他に移ります。短い時間でできるだけ多くの委員の皆様にご意見をお聞きしたいと思いますので、円滑な進行にご協力のほど、お願ひします。

また、前向きなご意見をいただき、実りある有意義な部会にしていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

それでは、区役所より説明をできるだけ簡潔にお願ひいたします。

○中須賀課長　総合企画担当課長、中須賀です。

それでは、最初にお配りしております70ページだての分厚い資料ですが、こちらの資料の見方につきまして、私の方から説明をさせていただきます。

表紙の次第に記載しております、今回の議題1は、28年度の運営方針の振り返りと、今年度、平成29年度の事業等についてであります。

3ページを開けていただきまして、3ページの上段に記載しておりますように、運営方針といいますのは、市政改革プランなど、全市的な方針を踏まえまして、東成区で行う施策の全体像を示す方針として、毎年度策定をしているもので、さまざまな課

題解決のための施策、あるいは具体的取組を示しているものでございます。

東成区では28年度につきましては、その下に表で記載しております、5つの課題について重点的に取り組んできたところです。

参考に、関連する部会ということで、この保健福祉部会に関連しますのは、課題3、地域福祉、健康づくりの充実・推進でございます。資料では、10ページから12ページに記載しております。この課題3につきまして、後ほど、担当の課長から説明をさせていただきます。

戻っていただきまして、4ページを開けていただきまして、この資料の5ページから18ページまでの資料の見方を説明しております。今回使います資料は、参考資料ということで、19ページから付けております、平成28年度の東成区運営方針、それと45ページから付けております28年度の東成区運営方針、この要点部分を抜き取りまして、見やすく、わかりやすくという観点で、編集いたしております。

引き続き、4ページの上の部分、区政会議資料と運営方針の対比例としまして、区政会議資料、この資料で言いますと、5ページの記載の部分を例にしておりますけれども、28年度と29年度のそれぞれ、運営方針のどこから抜粋しているかということを示しております。課題1のこの安全で安心なまちづくりでは、4ページの下半分にありますように、参考資料1のP24とありますが、この24ページの方から、要点を抜粋しております。抜粋している部分を太く囲いまして、上の方へ矢印で「この部分」というふうに示しております。同様に4ページの真ん中に、29年度主な取組内容、参考資料2のP50参照とありますが、そこには、概要を示しております、詳細については50ページに記載しておりますという意味でございます。業績目標、具体的取組の実績、29年度の主な取組内容など、詳しく記載されている部分を、確認されたい場合、参考資料の1の何ページ、参考資料2の何ページというように抜粋したところを記載しておりますので、その該当のページをご覧くださいと思います。私の方からは以上でございます。

内容につきまして、それぞれ担当課長から説明をさせていただきます。

○西山課長 保健福祉課長の西山です。よろしくお願いします。

10ページをお開きいただきまして、課題3、地域福祉、健康づくりの充実・推進のところ、担当の部分を説明させていただきます。

まず、誰もが安心して暮らしていけるように、地域における支え合いを充実させていって、地域福祉を推進するというのが、課題となっております。その一つの具体的取組としまして、具体的取組3-1-1、おまもりネット事業の推進というところを、説明させていただきます。

おまもりネット事業については、ご承知のことと思いますが、東成区社会福祉協議会に委託している事業で、誰もが住み慣れた地域で、安心して暮らせることを目指して、希望された高齢者や障害者の方に、おまもりネット手帳やおまもりネットカードを無料で発行している事業でございます。

この業績目標としまして、おまもりネットへの新規登録者数ということで、目標350名で設定をしております、576名の登録をいただきまして、目標としては達成したと考えております。

具体的取組につきましては、引き続き、地域福祉活動サポーターを配置いたしまして、おまもりネット事業の登録にあたって、周知をするという意味では、区内の65歳到達者に対するおまもりネット事業の周知もさせていただきました。対象者としては、1,208名ということになっております。

また、地域福祉活動サポーターさんのご提案でもありまして、この事業の相談・説明会を開催してはどうかということで、区役所の1階ふれ愛パンジーで、9回開催させていただいているところです。

こういった取組みによりまして、事業を推進しておりますし、29年度も引き続きまして、おまもりネット事業をはじめとした、地域福祉活動を推進するとともに、要支援者の個別支援のためのコーディネートを行ってまいりたいと考えております。

次に、2ページの後半部分ですけれども、具体的取組の3-1-2、在宅医療・在宅療養の環境整備について、説明させていただきます。これにつきましても地域福祉の理念どおり、例えば介護や医療が必要となっても、できるだけ住み慣れた地域、できれば住み慣れた自宅で最期まで、安心して暮らしていけるような、そういった地域づくりを行っていかうという取組みになっています。

業績目標としまして、在宅医療・在宅療養について知っている区民の割合ということで、設定をさせていただきます、目標としましては60%、区民アンケートでの結果でございますが、実績としては56%。少し、目標には達していないかなという状況になっております。ただし、箱の中の一番下に改善策という太字になっておりますが、見ていただきますと、在宅医療の認知度について、言葉のみは知っているという方を含めると、85%に達していると考えておりまして、目標としては、おおむね達成できているという見方もできるのかなとは思っております。ただ、やはり在宅医療について、言葉だけではなくて、中身を詳しく知っていただくということが重要かと考えておりますので、今年度につきまして、29年度についても、在宅医療の内容を詳しく知ってもらえるように、例えば地域の集いの場などを活用しまして、身近なところで普及啓発に取り組んでいければなというふうに考えております。

10ページに戻っていただいて、その箱の中の真ん中に、具体的取組ということで、これまで取り組んできたことについて、記載しています。在宅医療・介護連携推進会議という会議を、28年度、新たに設置をしました。医師会をはじめとします三師会、病院連絡会、訪問看護ステーション連絡会、居宅介護支援事業者連絡会、区社会福祉協議会、地域包括支援センター、医師会の在宅医療・介護連携相談支援室の皆様の代表の方に一堂に会していただきまして、この在宅医療、あるいは在宅療養、もしくは全体の地域づくりという意味では、地域包括ケアシステムと言いますけれども、それを誰もが最期まで安心して、できれば身近な地域、自宅で暮らしていけるようにとい、そういう地域づくりを進めていく上でのあり方と言いますか、いろいろとご協力、

知恵を出していただきながら、今、進めているところです。

また、会議という意味では、実務者の会議も設定しておりまして、そこにワーキングも設け、十分な議論を進めながら取組みを進めているところです。

28年度については、区の広報紙への啓発記事の掲載も出させていただきながら、この推進会議、実務者会議での議論をいただきまして、普及啓発用のリーフレットも発行をしています。それが、本日の当日資料として、お配りさせていただいております、「自分らしい」最期の迎え方、「在宅医療をご存知ですか？」というリーフレットになっております。例えば、寝たきりになったらどうなるのかなという、いろんな不安がある中で、見開きを見ていただきますと、東成区の方で、これだけの関係者が、利用者、患者様にいざという時のために、ネットワークを組んで、バックアップをしていきますよというような、参考にしていただけるような内容になっております。

最後の裏面のところに、今、会議でもご協力いただいております、相談窓口の皆様方について、ご案内をさせていただいているような、こういったリーフレットになっております。

会議の関係者の皆様のところでも、このリーフレットの方、活用してと言いますか、周知をさせていただいているところですし、29年度以降も身近なところで、皆さんによりわかっていただけるように、こういったリーフレットも活用していきたいと考えています。

私からは、以上です。よろしく申し上げます。

○北野課長 児童・保健担当課長の北野と申します。よろしくお願いいたします。

健康づくりの推進について、説明をさせていただきます。

健康づくりの推進につきましては、28年度も目標としまして、健康寿命の延伸に向けて、区民一人ひとりが健康づくりに関心を持ち、食生活の改善や運動、生活習慣病の予防等に取り組んでもらうというのと、抵抗力が弱く、集団発生となりやすい年齢層を中心に、感染症予防に取り組んでもらうという2つの取組みに重点をあてて、や

ってまいりました。11ページの上段の具体的取組3-2-1をご覧ください。健康づくりへの意識の向上の取組みとしまして、健康づくりの啓発活動を行ってまいりました。28年度の業績目標としまして、自分の健康に関心を持ち、行動しようと考えた区民の割合を、70%以上という目標を設定しておりました。健康教室などの場で、啓発の結果として、アンケートをとりました。その結果から、約89.7%の方が健康づくりに関する気持ちに変化があったと、ご回答いただいたところです。具体的に取り組んでまいりましたのは、1つ目としまして、各地域や保健福祉センターなどで、保健師が健康教室を128回実施しまして、延べ3,450人の方に百歳体操や生活習慣病予防の啓発を行ってまいりました。

2つ目としまして、健康づくりの視点からの食育に関する情報発信としまして、食育レシピ集などを、ホームページに掲載してまいりました。

3つ目の取組みとしまして、6月29日に区民センターで、健康づくり講習会「知ってまっか？いきいき百歳体操」を開催し、219人の方にご参加いただいたところです。その他区民や地域が主体的に健康づくりに取り組めるような啓発活動を、区民まつりや歯の健康展や食育展などで行ってまいりました。

次の平成29年度の主な取組みとしましては、引き続き地域健康講座やいきいき百歳体操の普及、食育の推進など、健康寿命延伸のための活動について啓発を努めてまいります。また、チラシをお配りしてるんですけども、この6月28日水曜日には、健康づくり講習会「いきいき百歳体操とウォーキングでつながる健康づくり」カラーのチラシがありますでしょうか。こちらについて、区民センターで開催することとしております。今年度につきましては、特に筋力アップにつながるいきいき百歳体操の普及に合わせまして、アップした筋力を維持し、持久力も増進する活動を重点的に取り組んでいきたいと考えておりまして、講演会にもウォーキングを追加しているところでございます。すぐ近くですけど、28日に開催させていただきますので、ぜひ皆様にもご参加いただけたらと思っております。

次に下の段の3-2-2、感染症予防対策についてです。業績目標としましては、正しい手洗い方法について、理解した手洗い教室の参加者の割合を、70%以上としてまいりました。具体的に取り組んでまいりましたのは、集団感染のリスクが高い、高齢者などが多く集まるところに、重点的に働きかけを行いまして、老人福祉センターや閉じこもり予防教室、地域のふれあい喫茶の場に行かしていただきまして、独自で作成しました「東成手洗いキュッキュッキュツの歌」を使って、啓発活動を行ってまいりました。これにつきましては、合計8カ所、延べ397人を対象に実施させていただいたところでは、こちらの参加者の皆さんにアンケートを実施した結果、「正しい手洗い方法について理解したか」との問いに、「大変そう思う」「そう思う」というお答えを、全員の方にいただきまして、目標の100%に達成できたと考えております。

次のページになりますが、手洗い教室の効果というのは、この100%の数字も見ましても、非常に効果的であるというふうに考えておりまして、平成28年度につきましては、区民の皆様のニーズなども確認しながら、地域などのご要望に応じて、開催してまいりたいというふうに考えております。

私からは、以上になります。

○羽鹿副議長　ただいま区役所より28年度の振り返り及び29年度の事業等についての、ご説明がありました。ご質問、ご意見ございませんか。

○長田議長　今の28年度の振り返りをお聞きになった上で、何かご質問なり意見がございましたら、お願いしたいと思うんですが、どうでしょう、塩田委員、何かないでしょうか。

○塩田委員　質問はないです。

○長田議長　大垣委員はどうでしょうか。

○大垣委員　また、考えて。

○長田議長　考えておいていただいて。石川委員。

○石川委員　目標達成率という形で表現をされてるんですけど、実際に事業はされ

ているわけで、そんな時にこういうふうな事実として、達成してる感じがありましたよとか、こんなことに対応しましたよとか、数値的なものじゃなくて、具体的なそういう何か、実感として感じられた達成感とか、そのあたりのことはありますか。どの事業でもいいんですけど、なかったですか。

○西山課長　例えば、おまもりネット事業について、登録者数という設定では、数字的にはそうだったのですけれども、やはり地域福祉活動サポーターさんが、地域のキーパーソンとして要になっていただいている、安心なまちづくりを進めていただけている、そういう意味でのこの事業の重みと言いますか、重要性というのは、常々考えておりますし、また積極的に、それを周知をしていくという意味で、自ら区役所の1階のふれ愛パンジーで、相談説明会をしてはどうかというような、積極的なご提案もいただいていたということについても、非常にこの事業をきっかけとして、地域福祉の推進が進んでいっているなという実感をさせていただいているところです。

また、在宅医療、在宅療養は、これからのことということもございますので、ただ本当に、これまでも東成区は、特に医師会さん、在宅医療という意味では、すごく進んだ地域ではあるんですけれども、関係者が一堂に会して、これから東成区、本当に安心して、最期まで暮らしていけるような地域づくりをしていこうという気運が高まったきっかけになったのではないかなというふうに、担当としては、感じているところです。

○長田議長　降幡委員、何かございませんか。

○降幡委員　今のところはないです。

○長田議長　橋本委員は。

○橋本委員　すみません。ちょっと今は。

○長田議長　ないですか。

高野委員、どうでしょうか。

○高野委員　報告どおりですね。うまいこといってるんじゃないかなと思ってます。

○長田議長 副議長は。

○羽鹿副議長 おまもりネット事業ですが、皆さん、私らも寄せていただくんですけども、気分よく受けてくれる方と、なかなか渋って「もういいわ」と言う方がおられるんですけども、地域の皆さんでどうですかね。皆、気分よく受けてくれますか。

○高野委員 子どもさんなんかは、お母さんやお父さんのことについて、外へ個人情報として漏れるのがいややっていう子どもさん、娘さんのところにいてはるといふうな、そういうのを、どういうふうに勧誘していったらいいのかなと考えてますけど。

○羽鹿副議長 やはり、このごろは、個人情報だ。

○高野委員 そうなんです。

○羽鹿副議長 特に、若い方が厳しい。

○高野委員 そうなんです。親御さんは「いいですよ」って言ってるんですけどね。

○長田議長 私の方から、このパンフレットですが、これは区役所独自でつくられたわけでもないんですね。

○木口副区長 独自ではございません。中身につきましては、先生方ですとか、在宅医療のいろんな会合がございますので、そこでお諮りさせていただいて、内容を決めさせていただいたということです。

○長田議長 これ、前にいただいたかどうかわかりませんが、すごくいいなと思っているんですけど、これ見開きを開いてもらったら、この図が結構、今、見させてもらって、非常に気に入ったんですけど、あと1年、2年後にいわゆる、包括ケアというシステムが、新しいの立ち上がるわけですが、私も府の医師会でもその役をやるんですけど、どうもよくわからない点がまだまだありまして、介護ばかりがサークルの中に入ってしまうと、医療はその一部のような感じがして、うまい具合にくんかなというふうに危惧してる所なんですけど、私はこの絵のとおり、やはり利用者というか、患者さんが真ん中であって、介護と医療というものがあって、そこか

らうまい具合に患者さんの生活面と、そして医療面等を、うまい具合にリンクしてや  
っていただける、そういうような図が、好ましいと思うんです。まさにこれですが、その  
ケアシステムの図は、非常にわかりにくくて、ぐるぐる24時間の訪問で、その患者さ  
んを診るような絵を書いているんですけども、それは、患者さんは生活面ではいいん  
ですけども、医療の面ではどうやっていくのかという、その2つのこの立ち位置がは  
っきりしないんです。それで、僕は医療と介護というのは、両立してこそいいと思っ  
ているので、医療だけが先行してもあかんし、介護だけが先行してもいけないと思う  
ので、どうも絵の中では、ちょっと医療そっちのけの感じがしていて、僕は余り好き  
な絵ではないです。それは、府の方の医師会でも、僕はさんざんレポート出して、そ  
うなっちはいけないということ言ってるんですが、まさしく私は、この絵ですね。  
この絵は僕、すばらしいと思って、単純な絵なんですけど、こういうことですよ。こ  
れを、いいのを作っていただけたなと思って。これは、いつできたんですか。

○木口副区長　この3月末ぐらいだったと思います。

○長田議長　そうですよね。僕、これ初めて見たんで、これいいなと思って。こう  
いうようないろんな介護と医療とを二つに大きく分かれると思うんですけども、こ  
の二つは両輪のようにしてやっていくと。主に、患者さんっていうのは、医療という  
ても、例えば末期の患者さんでは、医療というても在宅では、大きなことをやらない  
です。心の支えになればというような感じでいってるわけですけども、生活という面  
はやはり、そういう人たちには、ぐっと入り込んでいってもらわないといけないとい  
うような面で、やはり介護及び訪問看護、これが非常に大事な役割になってくると思  
うんですけど。そういう中でも、常にチェーンを持った、つながった連携というのは  
僕、望ましいと思うので、まさしくこれの患者さんのところに矢印ありますが、その  
大きく、その輪っかにこの医師、歯科衛生士、薬剤師、ケアマネ、これをまた大きな  
チェーンの輪になって、結べたらなというふうに思うんです。僕、これうれしかった  
んで、ちょっと意見を。

そうしたら、進めていただいてもいいでしょうか。

○羽鹿副議長　　まだご意見があるかと思いますが、平成28年度東成区運営方針の振り返り、及び29年度の事業等についてを終了してまいりたいと思います。

では、次の議題に移らせていただきます。議題2、その他についてです。まずは、追加資料があるようですので、区役所から説明をお願いいたします。区役所の方からどうぞ。

○西山課長　　私の方から説明させていただきます。今日配布させていただいた資料の中に、緊急時安否確認（かぎ預かり事業）のリーフレットをお配りさせていただいています。これについて、説明させていただきます。

この事業については、2月より実施をしていますので、部会の皆様に説明させていただくのは初めてになります。

この事業の内容については、リーフレットに書かれてあるとおりで、例えば近隣の方の姿が見えないと心配したとしても、かぎがかかっていたら勝手に家の中に入ったりとかすることはできないという中で、おひとり暮らしですと、いつ倒れたり、誰かに助けてほしいと思う時に、どうしようかなというような不安を抱えていらっしゃる方もおられると思います。そういった不安を少しでも解消して、事故を未然に防ぐということを目的としまして、緊急時安否確認（かぎ預かり事業）を開始させていただきました。

この事業については、東成区にお住まいのひとり暮らしの高齢の方が、安心して暮らせるように、事前にかぎをお預かりして、緊急時にかぎを使って家屋に入って、安否を確認するという取組みになっています。

実際に、このリーフレットの一番下に、事業主体としては、かぎ預かり事業の共同体ということで、構成団体、区役所も入ってですが、区社協さんも入っていただいて、この構成団体での、実施主体となっておりまして、実際に利用の申込みにあたっては、リーフレットの真ん中から下に書かれていますようなところが、窓口になっていただ

いている事業です。

参考に、この事業ができた経緯としまして、東成区の方では、地域生活支援システムという、実務者の方の会議があります。これは分野別に高齢者支援、障害者支援、子育て支援、健康づくり推進ということで、専門のあるいは地域で、そのそれぞれの分野で活動していただいている方が一堂に会していただいて、いろんな意見をいただいて、今の地域課題はこういうことだね、これを改善するにはこういうことをしたらどうだろうかということ、熱心にご議論いただいて、その中で出てきた事業となっております。

2月から開始をしまして、「ひがしなりだより」等で周知をさせていただいております。今現在で6件、かぎ預かり事業を利用していただいております。今後も関係者の方と協力しながら、必要な方に利用していただけるような制度として、推進できればなというふうに考えています。

もう1点、私の方から、情報提供という意味で、コピーになっているのですが、リーフレット自身の数が限られているということで申し訳ございません。ホッチキス止めで「ヘルプマークを知っていますか？」というのを付けさせていただいております。これについては、1枚目めくっていただいた裏面にありますように、この趣旨ですが、義足とか人工関節を使用している方、あるいは内部障害の方、難病の方、妊娠初期の方とか、見た感じでは援助・配慮が必要としているかどうか、わかりにくい方についても、今、このマークのストラップの実物を回していただいております。これを付けていただくことで、周りの方がこの方に対して、配慮が必要なんだということ、応援ができるという、そういう取組みになっています。これは、全国での取組みですが、進めるかどうかは都道府県に任されていまして、大阪府については、大阪府下の、大阪市もちろん含めまして、大阪府下では、今年度の6月から配付を開始しています。主に大阪市の場合は区役所と市役所、東成区役所の場合は、2階保健福祉課の障害福祉の担当の方で配付をしております。ぜひこれはご本人が知

っていただくということもありますけれども、周りの方がこのヘルプマークの意味を知っていただいて、配慮していただければなということで、ここで情報提供させていただきます。以上です。

○石川委員　いいですか。

○長田議長　どうぞ。

○石川委員　かぎ預かりの事業、共同体ですので、一緒にさせてもらってるんですけど、先だって中本の社協の総会で、かぎ預かりの話を、今現在、何人の利用ですっていうことを報告させてもらって、やはり地域の役員の方、そらそれくらい少ないわなっていう感じで、反応されてたんです。この事業を立ち上げる時に、検討してた時も、基本は地域のつながりの中で預かってくれている場合は、それはそのまま維持したいよねっていうのがあって、この事業に取って代わるものではなくて、これまでのつながりは、しっかり残しておいて、これまでのつながりの外側にいたり、これからそのつながりが弱くなって行って、そういうことができなくなった時に、この事業をやはり使ってもらおうよっていう話があったので、我々としても地域の方が、そういう反応されたのと同じことを、もうはなからわかっていた話なんです。でもやはり、専門職がかかわっていく中で、つながりの外側におられる方は、確実にやはりおられるわけで、ご家族が東京とか熊本とか、東北の方におりはったら、どうしようもないわけで、そういう方をサポートするには、こういう事業がやはり必要だし、地域としてもほったらかしにもしとかれへんし、そんな中で議論をさせてもらったように思います。なので、この事業だけが一人歩きをして、かぎ、役所も一緒になって預かってくれるらしいでっていうことではなくって、基本は地域のつながりを大事にしながら、この事業が伸びていったらいいなと思っています。でないと、せっかくあるものを奪っていくような話になってはいけないなというのが、正直なところですので、我々専門職サイドも、そういうことはしっかりとわかった上で、伝えていきたいなと思っています。あと、地域包括ケアシステムの先生、お話をしてくれてたんですけど、地域

包括ケアシステム、実は介護と医療と、真ん中に個人の暮らしがあって、暮らしとか住まいがあって、ボトムにあるのが地域なんです。医療と介護と地域が一緒になって、それこそ包括で進めましょうという取り組みです。それで、個人も利用するばかりじゃなくて、地域の老人クラブに参加したりとか、ボランティアをしたりとか、町会の活動に参加して、個人も地域に貢献しながら、地域の中で、みんなと一緒にあって、連携して、暮らしましょうという図になっているので、だからそこが、うまいこと回り出してほしいなっていうのが、そうやないと、医療と介護の専門職サイドだけが一生懸命になって、個人はもうしんどくなったら、任したらいいんやろって思ってて、そうではなくて、先生もわかってはると思うんですけど、やはり個人でも頑張ってもらわなあかんこともあって、そういう意味では、今日、サポーターさん、お二人来られてますけど、地域でいろんなね、サポーターさんだけじゃないね、その女性会もそうですし、民生委員さんとか、母子会さんもそうですけど、いろんな取り組みをやってるので、そういうところも一緒になって、地域全体で、その地域包括ケアシステムっていうのを、回していくような感じにならんといかんのかなと思ってます。何でか言うたら、ある時に、4月か5月くらいの時に、これ残念ながら東成区じゃなかったんですけど、登下校の見守りをしてはる横を通ったんですけど、4月ごろやったら、1年生とか学校行くの、しんどかったりするんでしょうね。えらい泣いてはったんですよ、女の子が。そうしたら、登下校の見守りをしてたおじいちゃんが、手を取って、「おじいちゃんと一緒にいこうよ」って言うて、学校まで連れて行ってはったんです。そんなんって、専門職、できないんですよ。地域の人がやはり、そうやって支えてもらって初めて、その女の子は学校行けたっていうようなことがあるので、そういう支えって、必ずいるんやと思うんです。そこは、医療と介護でどうしようかって話ではなくって、地域も一緒になって、こういう支え合いの中をできたらいいなと思ってね。これは、すごくいい取組みなんやなと思って、見せてもらってたんで、そういう何か、仕組みのイメージの図だけじゃなくて、そういう実際の活動の中で、人

がつながって、安心して暮らせてる様子っていうのを、感じていたら、もう少し、図だけが一人歩きに先生、しないように僕は、いつも思ってるので、どうしてもシステムって言われたら、図だけが一人で先先、先先行ってしもうて、この図のとおり活動、作らなあかんのかって思ってしまうんですけど、本来は、活動とつながりがあって、それが図に落ちていくような、イメージになったらいいと思っています。東成の場合は多分、そういうつながりのある取組みを、一杯積み重ねてきてるので、いったんそのシステムの図に、それを落とし込むような作業もあってもいいのかなと、思ったりします。そうでないと、図のために助け合い活動するみたいな話になってしまうので、何かそういうのがいいかなと、今、図がここにあったら、もっとわかってもらえるのかもしれないですけど、そういうふうに思います。

○羽鹿副議長　私の先日、ここに書いてるかぎ預かりのことで、サポーターさんから、ちょうど書いてるとおりです。近隣の方の姿が見えない、心配してるということで、サポーターさんのところに電話があって、私がついて行ってくれということでして、かぎ、サポーターさんのところに預けてるから、それ持って開けたんです。結局、おられましたけども、その近所の方が、たたいても誰も出てこないと言われて、行ったら、ちょうど車椅子も置いてあるから、その人本人は、出てきてないんやけども、その車椅子があるから、こら出て行ってないと、またかぎをかけて帰ってきた。これほんとに、これに書いてあるとおりのことがありました。

○石川委員　でもそうやって、実際行ってもらって、安全とか確認してもらえると助かります。

○羽鹿副議長　ちょうどこれに書いてあるとおりです。

○石川委員　サポーターさんと地域の民生委員さんが、一緒に行ってくれると誰々をお願いして、みんなで調整するというたら、時間かかって仕方ない話なので、一番最初にそういうつながりの中であるんやったら、さっと行ってもらったら、話が早いですよね。

○羽鹿副議長　　これがかぎ預かりの、このことやなと思いました。

○石川委員　　その方は、地域で預かってくれてたんですか。

○羽鹿副議長　　ヘルパーさんいうて、あのサポーターさん。

○石川委員　　サポーターさんが、預かってくれてたんですね。

○羽鹿副議長　　そう、預かってくれてた。

○石川委員　　それが早い。やはり、命にかかわるようなことがあったりとかしますもんね。

○羽鹿副議長　　そうですね。

○石川委員　　かぎって大事なもんやから、預けるのはやはりちゅうちょしたりするのでね。なかなか難しいんですけど、それでもやはり、いろんな方が、それこそ民生委員さんが預かってくれてるところもあるし、ヘルパーさんが預かってるところもあるし、近所の酒屋が預かってるところもあるし、いろいろですよ。預かってくれる方が。いろいろアンケート調査したら、そういう方もおられるし、やはり家族しか持ってないところも結構、ありますわ。どこですかというて近隣、大阪市内くらいやったらいいんですけど、遠いところで預かってくれてても、いざという時、どうしようもないよねっていうのがありますね。

○大垣委員　　子どもが遠いということもあるしね。

○石川委員　　そうなんですよ。子どもに預けてますって言うて、どこですか書いてくれてはるのが、えらい遠かったりするんですよ。これでは、間に合わんなくて。

○羽鹿副議長　　それでは、説明のあった取組みも含めて、何かご質問やご意見等はございませんでしょうか。

○塩田委員　　今のかぎ預かりの流れで。娘さんが東北にいらっしゃる方で、1人1件、受けた方がそうなんです。奥様を亡くされて、ご主人がなかなか、地域とのかかわりがない方で、奥さんはすごくあったみたいなんですけど、亡くされて、もうお父

様1人で、近所につき合いがないっていうんで、娘さんがすごく心配されて、毎晩テレビ電話か何かでちゃんと生きてるかっていうのを確認されてたんですけど、万が一倒れてても、岩手から飛行機に乗って、急に来れないので、頼める人もいないので、「ひがしなりだより」を見て、これを申し込まれた方がいらっしゃいました。

○石川委員　　今、パソコンの上に、付けるタイプのやつで。

○塩田委員　　毎日、お孫さんが、「おじいちゃん生きてる」とか言うてやってるんですけど、もしそれで倒れてるとかいうのを、確認できたとしても、空港まで3時間かかって、そこからまた行って。見に行ってくださいっていう人もいないから、どうしようと思ってたんですということで、すごくこれで安心ですっておっしゃってました。

○大垣委員　　私も実はいくつかのかぎを持ってて、自分は1つ持ってます。1つは息子が持ってる。1つはお友達に預けてます。電話かけたら走ってくれるようなお友達に預けてます。だけど、何か心配で、この間から1月から、ちょっと体調悪くしたら、もういつ死ぬんやろっていうことを思います。だけどやっと元気になったから、よかったなと思うけど、ひとり暮らしの怖さ、夜は電気、赤々つけて寝ましたし、テレビはつけっぱなしで小さいテレビをつけて、音がないと怖いんですよ。そんなのいろいろあって、やはりひとり暮らしの怖さというものがすごくありますわ。そんな経験をしましたので、かぎ預かりなと思ったけど、息子には預けておかないと怒られるし。かぎ預かりいうものは、みんな不安がありながら預けなあきませんので、一番安全な預け方いうのをやはり考えて、預けたいなと思います。

○石川委員　　そうですよね。

○大垣委員　　もしも、預けたい言う方いたら、どこへ言ったらいいんですか。

○石川委員　　言うてくれはったら、ご相談に行かせていただきます。

○長田議長　　これは、ちょっとシステムとして、預けますでしょ。それで、ちょっとおかしいんだということを、ご近所なりが見つけたら、どこへ連絡すればいいです

か。

○羽鹿副議長　警察とかがサポートにしてくれはるね。

○花村課長代理　そうですね。平日のお昼間でしたら、区役所であつたり包括の方に連絡していただいたら、対応させてもらいますし、休日であつたりとか夜間の場合は、東成警察とも連携して、すごく協力していただいているので、警察官の方が、24時間開いている施設に、かぎは預かってもらってるんです。

○長田議長　まとめて。

○花村課長代理　そうです。個別に封筒に入れて、そのかぎを24時間開いてる施設に、保管してもらっているんで、そこまで警察官が取りに行ってくれて、そのかぎを使って、安否確認のために中を開けるっていうところも、警察の方がしてくださいませ。平日のお昼間は、警察官とこういう高齢の支援をしているものとが一緒に行って、安否確認をするという流れになっています。

○長田議長　昼間も、かけるとしたら、慌てている。

○花村課長代理　110番で。

○長田議長　110番が一番やりやすいです。110番でいいわけですか。

○花村課長代理　110番で結構です。預かってる人が誰で、どこの施設にあるかっていうのは、警察にもその名簿がありますので、その名簿を見ていただいて、すぐ連絡していただくことができるようになってますので。

○長田議長　すばらしいです。

○大垣委員　110番、誰がするの。

○石川委員　それは、周りの心配した人がします。

○花村課長代理　そうなんです。やはり、周りの方が気付いていただかないとせっかく、かぎを預けてても、役に立たないので。

○石川委員　そうなんですよ。

○花村課長代理　そこはやはり、日ごろのつながりが大事になってきます。

○石川委員 つながりがね。

○長田議長 それが、僕がさっき言った、ここ東成8万の住民がいますでしょ。その中で、こういう地域の連携とれているというの、他の区では、ないですかね。かぎ預けてる言うたら、今おっしゃったように、隣2日間、顔合わせへんって、もうざらでしょ。

○大垣委員 ざらですね。

○長田議長 隣に誰がいてるか知らんという中で、今の社会の中で、東成、これすばらしいなと思ってるんです。地域の連合も本当に、活動もすばらしいし、だから僕、さっきの地域包括にしても、全てこれ、東成区自体に何かあれが、またでき上がっていったるなというふうに僕、生意気って言ってるけども、教えられることばかりで、こういうようなのも、これ普通の区であったりすれば、まずできないなと思って。これも感心させられてばかりなんですけど、これも感心してるところです。ただまだ、知らない人もたくさんいると思うんです。

○大垣委員 いてはりますね。

○長田議長 あとはちょっと、啓蒙していただいて、と思います。

○石川委員 かぎ預かりの取組みも、東成だけやからね。

○長田議長 こんなのできませんわ。

○石川委員 よそには、ないので。

○長田議長 1週間、見ないなんて、平気ですからね。

○花村課長代理 高齢支援をしてくださる包括さんであったりとか、社会福祉法人さんのご協力もありますし、その24時間預かってくれはる施設さんが、サンローズさんとハミングベルさんですけども、そこにも役所からお金、払ってるとかっていうことは一切なくて、社会貢献事業としてやってくださってるのもとてもありがたいなというふうに思ってます。

○長田議長 やってくれてるよね。

○石川委員　　そうですね。

○長田議長　　やはり、預ける方の安心材料としては、その封か何かして、開封すればいつ、いつ何に使用したということがわかるようになってるわけですね。

○石川委員　　それで、ちゃんと使ったあとは、同じ作業でもう1回、巻き直すような作業を。

○長田議長　　なるほどね。それ、素晴らしいですね。

○石川委員　　余り使うことがないのが、一番いいですけどね。

○花村課長代理　　今現在、6人の方が登録していただいています、まだ使った実績っていうのは、今のところないです。

○長田議長　　だから、あとは知らない人、それで預けるのにちゅうちょするので、今のご説明やったらちゅうちょすることなく、安心して預けられますわな。そういう意味では、もうちょっと、宣伝がいるかもわかりませんが、素晴らしいと思います。

○羽鹿副議長　　始まってまだ、間がないからね。

○長田議長　　間がないですね。

○石川委員　　そうですね。2月からです。

○長田議長　　すごいですよね。

○石川委員　　うちも共同体の中に入ってなかったら、もっと褒めたいんですけど。入ってしまったので、余り言うたら手前みそになってしまうから。

○大垣委員　　いや、いいですよん。

○石川委員　　いや、本当に、検討段階で、専門職側は、やっても社会福祉法人だけやったら、どこまで信頼されるんだろうかっていう不安があって、ここはやはり区役所っていう看板で、地域の方にご安心いただかないとだめだろうなというところで、お話したら、しっかり検討してくれはって、共同体の中心になって、区が動いてくれはったので、よかったなというのが正直あります。

よその市町村やったら、社協がやってるところもありますし、セコムみたいのところ

を、緊急通報システムとセットで、企業に、それも結構なお金で預けてるところがあります。豊中とかは、多分そうでしたかね。セコムみたいところが預かってて、利用料をしっかりと取られてはる。

○長田議長　警察が、こんなに協力的なのがびっくりしたんですけど。

○花村課長代理　そうですね。

○長田議長　すごいですよね。

○花村課長代理　はい。

○長田議長　東成ってすごい区ですね。

○花村課長代理　警察の方も、地域によくふれあい喫茶とかにも行かれて、詐欺とかの啓発もされたり、地域とも密着されておられるので、こういう事業についても、そら必要やねいうことで、協力していただいたということになります。

○石川委員　ちょうどこれ、検討してる時に、どこかの地域でお亡くなりになったことがありました。あれはどこでしたか。神路でしたか。タイミングがあって、やはり警察としても、そういう仕組みがあったら助かるっていうので、警察の中でも、多分説明がしやすかったんでしょうね。

家におったらこれで、出かける時はおまもりネットカードを持って、出かけてもらったらいいなっていう、ねえ石田さん。

○石田委員　はい、いいです。

○長田議長　石田委員、何か一言、もうそろそろですので。

○羽鹿副議長　10分ほど、まだありますので。

○石田委員　片江地域なんですけど、先月、かぎ預かり、やはり娘さんが他府県なので、いろんなものを調べられて、区役所の方に相談されて、登録されました。もうそれですごく安心や言うて喜んでおられました。社協の皆さんとぞろぞろと、お家まで寄せていただいて、私、ちょっと足が悪くて行けなかったんですけども。独居の方が多いので、少しずつでもそういう方が。

○長田議長　　そうですね、多いですね。

○石田委員　　登録していただけたらいいなと思っております。

○長田議長　　把握できてる独居の人数って、どれくらいいらっしゃるんですか。独居の家庭、東成区で。

○花村課長代理　　約5,000人くらいです。5,000世帯。

○羽鹿副議長　　橋本さん、どう。

○橋本委員　　嫌がる方って、ないんですか。かぎを預けることを拒否された方。

○花村課長代理　　基本、手あげ式なので、必要と思われた方が、言ってきていただけるので。

○橋本委員　　そうですね。

○花村課長代理　　ただやはり、かぎって大事なものだから、預けるのにはハードルはちょっと気持ち的に高いのかなってというのは、感じるところではあるんですけども。

○大垣委員　　強制じゃないからね。

○花村課長代理　　そうですね、はい。

○橋本委員　　手あげ式でしたらね、ご本人納得やからね。

○花村課長代理　　また、お一人で不安を持っておられる方だと思うので、このかぎ預かり事業だけじゃなくて、サポーターさんと顔つなぎになることによって、おまもりネットであったりとか。

○橋本委員　　そうですね。

○花村課長代理　　ふれあい喫茶とか、そういうところのご紹介もできて、今まで孤立してたところが、地域につながっていくきっかけの一つにもなるのかなと思います。

○橋本委員　　そうですね。

○石川委員　　これだけあっても、安心ね、かぎの分は安心やけど、やはりふだんは、いろんな人と交流しながら、地域の中でふれあい喫茶なんて、誰でも来ていいよって言うてくれてはったら、我々は紹介しやすいんですよね。ここでこんなんやってはる

から、行ったらお友達できるかもみたいな、食事サービスやったら事前の登録がいるけど、ふれあい喫茶やったらね。そこの部分は簡単にご紹介させてもらえたり。

○橋本委員　　そうですね。

○石川委員　　そういう意味ではありがたいなと思ってます。

○橋本委員　　友愛訪問っていうのをやってますが、そういうのは、かぎがかかってたら、かぎを開けてまでっていうのはできませんので、お留守の場合はお手紙入れてという。

○石川委員　　何軒くらい回りはりますの。

○橋本委員　　うちの町会だけですからね。

○石川委員　　一つの町会。

○橋本委員　　30軒、あるかないかですね。

○石川委員　　やっぱりそのくらいですね。30軒くらい回りはるんですよ。

○橋本委員　　本当はもっとあるんですけど。

○石川委員　　嫌がる人もいてはるからね。

○橋本委員　　お元気にされてる、しょっちゅうお顔見る方はね、余り必要ないかなと思います。

○石川委員　　ちょっと心配な人のところへね。

○橋本委員　　ええ。けど、1軒ちょっと、ご心配なところあるんですけど、その方も、部屋の中におられて、余り体も自由に動かせられないんですけど。窓をあけてね、窓の外から声をかけて、そうしたら大丈夫です言うて、息子が来てくれるからって言われるので。

○石川委員　　介護のサービスも使っておられんですか。

○橋本委員　　使ってないんです。

○石川委員　　使ってないんですか。ちょっと気になりますね。

○橋本委員　　ちょっと難儀してるんですけど。息子さんにもなかなかお会いできな

いしね。そういう方がお一人、おられるんですけどね。中からお声はお元気なんですけど、お身体がちょっと動きにくいっていうかね。

○石川委員　様子を見られたらいいんですけどね。

○橋本委員　そうですね。窓、これくらいで見えないんですよ、中を暗くしてはるから。お声だけを頼りに、元気なお声してはるから、大丈夫なんやろなと思いますけど。

○羽鹿副議長　なかなかかぎ、開けてくれないからね。

○橋本委員　そうです。それで、すだれとかあって。

○高野委員　体が不自由というか、なかなか立てないんですよ。

○橋本委員　すだれとか網戸があつたりしたら、余計に見えないんですよ。

○高野委員　だから、ピンポンと押していただいても、自分がそこ、直ぐに行けないから、もう押さないでくれと。

○石川委員　そう思ったら、いろんな苦勞がありますよね。

○橋本委員　大丈夫ですって言うて、中から言われたら、それ以上、踏み込めないですしね。

○石川委員　そうですね。そこから先は、難しくなりますよね。手を挙げてくれはったらいいんですけどね。何かしんどくなった時とか、助けてくれって言うてくれはったらいいんですけど、なかなか言ってくれないからね。

○羽鹿副議長　そういう性格の人がね、たくさんおられる。

○石川委員　ほんと、そう思いますね。

○羽鹿副議長　迷惑かけない言われるしね。

○橋本委員　昔、何十年も前に、町の名簿っていうのをちょっといただいてたのがあったので、見ましたけど、息子さんの連絡先もわからないという。

○羽鹿副議長　降幡さん、どうですか。

○降幡委員　先ほど、議長もおっしゃってましたけど、見守りとかかぎの分ですが、

やはり皆さんに広報、何度もしてもらわないと、見守りも僕も、詳しく説明して入ってください言うたら、そんなん入れへんって言われてね、次の時に、また言ったら、ぜひ入れてという態度が変わってましてね、だから、本当に理解するように、説明だけはしないとイケないと思います。このかぎ預かりも、民生委員会で僕、二度、三度、皆さんに聞いたんですが、私1回だけ聞いたことあるけどという程度で、割合に少ないですね。

○石川委員　　そうですね。

○降幡委員　　実際に、自分の町会調べると、もうそれこそ、近所に息子さんとか住んでおられて、持ってはりますのやね。それから親しくしてるところで、預けてるという。ただ1軒だけ、港区の方に息子さんおられて、2月くらいに来たら、鍵しまってたから、買い物に行ってるんやなって、そのお父さん1人で、住んでおられまして、それで5月ごろ、孤独死でわかったんですけど、12月ごろ、もう亡くなっておられました。ミイラ化みたいな、チョコレート色になっておられました。それを、隣のお家からお知らせがあって、入り口の前にハエがいっぱい湧いてるってことで、レスキュー隊に来てもらって、窓を外して入って、そういう状態。息子さんおられても、その場合は近所付き合い嫌な人です。

もう晩に、暗くなってから表に出て、ほうきではいたりしてはって、国勢調査の時はうまいこといきましたけど。それから、わずかあとのことですね。だけど、こういうのは、広報をやはり何回もしてあげないと、1回では聞く耳も、ちょっとふたしながら聞いておられるし。その辺は、先ほど議長おっしゃったように、何回も言っただけだと、気が変わりますしね。

○長田議長　　そうですね。

○石川委員　　かぎを預かってるだけじゃなくって、やはり見つけてもらわないと、どうしようもないのでね。

○長田議長　　そうなんですよ。

○石川委員 だから、そこあってこそその事業ですよ。

○降幡委員 まだ北中道は、古い家があるんですけど、うちの町会なんかマンション7つあって、今また、2つ建ってますからね。国勢調査で210軒くらいあるけど、入ってるのは80軒ほどですからね。

○石川委員 そうですか。

○降幡委員 だからもう、あきませんね。そういうところは、しょうがないですね。

○石川委員 なんかにどうすればうまいこと、皆さんつながっていけるのかって難しいところですよ。行き過ぎたら嫌がられるし。

○羽鹿副議長 余り、出しゃばり過ぎても嫌がりはるね。

○石川委員 そうやね、難しいですよ。

○羽鹿副議長 そろそろ時間も経過しておりますので、意見交換を終わらせていただきたいと思います。

本日は、このかぎ預かりですごく盛り上がりましたが、在宅医療とかいろんな意見、活発な議論が行われました。本部会としては、本日出されたさまざまな意見について、今後の部会で検討し、議論を進めていきたいと思っています。

本日の議題は、以上で終了し、区役所の方に進行をお返しします。議事進行にご協力いただきまして、ありがとうございました。

○中須賀課長 スムーズな議事進行にご協力いただきまして、ありがとうございました。以上をもちまして、本日の議事を終了させていただきます。

なお、来月、7月12日に区政会議本会議の開催を予定しておりますので、ご出席の程、よろしくお願いいたします。時間は15時、3時からで、区民センターの大ホールで行います。

これをもちまして、平成29年度第1回目保健福祉部会、終了させていただきます。ありがとうございました。